

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年3月1日

事業所名 富里市簡易マザーズホーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	3	・空調機器の不調があり、福祉センター内の部屋を借用し活動を行っている。在籍児の年齢に偏りが生じていることから、スペースの確保は、今後の検討課題だと思われる。	・コロナ対応をするためには、狭いと感じることがあった。 ・年中児が使用している指導室では、少し狭いように感じる。現状では利用児5～6人程度が適性な広さではないだろうか？ ・年中児の指導室については、登園児が多い日は、狭いと感じることがある。
	2	職員の配置数は適切である	6	1	・少ない人数ではあるが、指導室や用具や器材を工夫して使用していると思う。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等はバリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	1	・空調機器の不具合により、調整不可。指導室については、福祉センター内別室を使用する等、可能な対応は行った。次年度以降、修繕等実施。	・冷暖房機器が快適に使えるようになると思う。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2		・令和2年度はコロナウイルス感染症の影響により研修は中止された。

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	7			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			
	12	個別支援計画は「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援について具体的な支援内容が設定されている	7			
	13	個別支援計画に沿った支援が行われている	7			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	7			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			
20	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	7				
関係機関や保護者との連携機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		・健康推進課等外部機関との連絡会を定期的に行っている。	
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				・該当なし
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				・該当なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				

関係機関や保護者との連携機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている				
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	4		・コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度は休止。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族の支援を行っている	7			
保護者への説明責任等	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	33	個別支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	7			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	・懇談会を年2回程度実施している。	・保護者会がない。 ・保護者交流を目的に含む親子レクを実施している。（R2年度中止）
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	37	定期的に園だよりを発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		・園だよりの他、マチコミ（一斉メール）での連絡により、臨機応変に対応できている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			

非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・防災関係の指導計画を立案し、職員の動き役割分担を示し共有している。 ・年6回、防災訓練を実施している。実施にあたっては、保護者や利用児への目的や安全意識向上につながるよう、説明や配慮を心掛けている。 	
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			
	42	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7		<ul style="list-style-type: none"> ・毎年の利用契約時、健康調査票をご提出いただき、健康状態に係る情報を把握の上、対応を検討・共有している。 	
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーのあるお子さんには、かかりつけ医の検査報告書及び在籍園等に提出している「学校生活管理指導表」をご提出していただいている。 	
	44	ヒヤリハット案件について事業所内で共有している	6	1		
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		<ul style="list-style-type: none"> ・県が開催した障害者虐待防止・権利擁護研修を受講した。年度末までに園内研修を実施する。 	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に了解を得た上で、個別支援計画に記載している	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・着席時、離席の目立つお子さんに対し、保護者や職員の関わりとして、腰に手を回すことがあるが、その意図や目的について、保護者には必ず説明し了承を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束については、行っていないため、個別指導計画には記載していない。

○ この「事業所における自己評価（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。